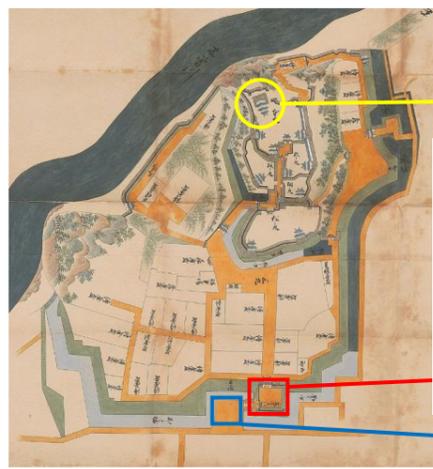


犬山城大手門枳形跡（犬山市福社会館跡地）発掘調査



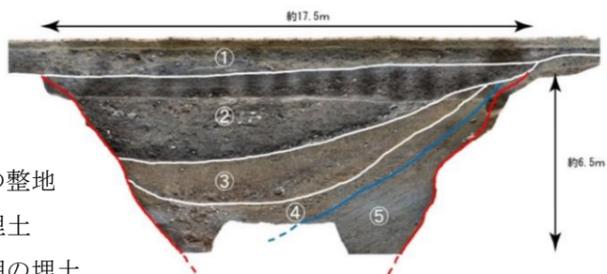
天守
犬山城修復願雛形絵図
安永9年（1780）
犬山城白帝文庫蔵
（一部加工）
大手門枳形の堀、土塁、石垣
大手口



今回調査を行った犬山市福社会館跡地の付近には、かつて犬山城への入口となる大手門と石垣や土塁、堀などで作られた大手門枳形がありました。過去の調査などでも、堀や土塁などの痕跡が確認されたことから、この場所は国史跡犬山城跡の追加指定候補地となっています。

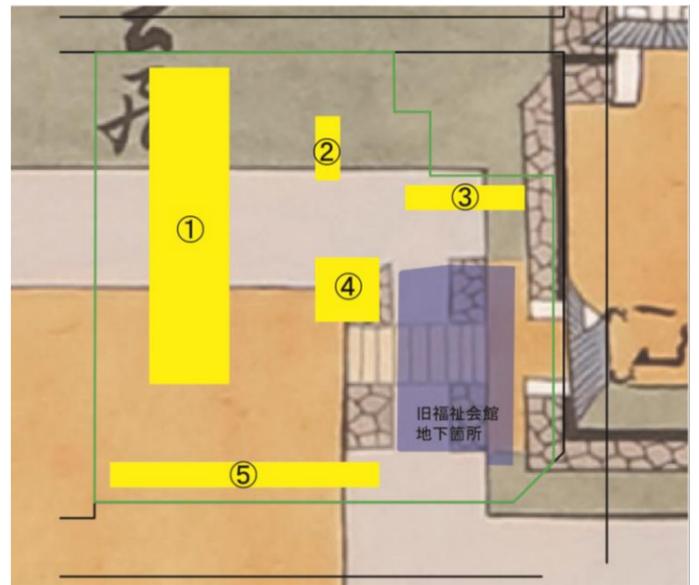
今回の調査は堀や土塁などが地下にどの程度残されているか、また、それがどのような大きさや形だったかを確認するため調査を実施しました。

犬山城付近の航空写真



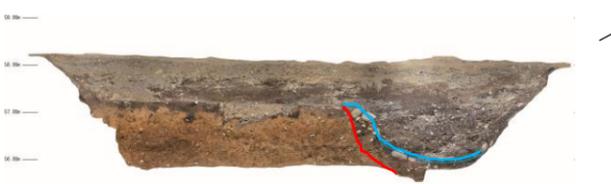
- ①福社会館建設時の整地
- ②昭和期（戦後）の埋土
- ③④明治から昭和期の埋土
- ⑤廃城後の埋土

1 トレンチ（右が北）

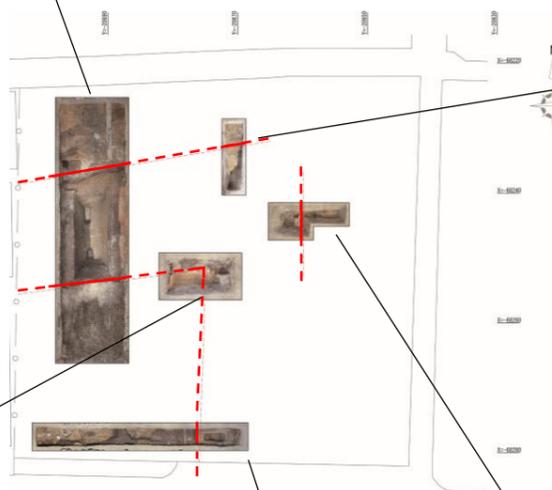


犬山城修復願雛形絵図 安永9年（1780）
犬山城白帝文庫蔵

この場所には犬山市福社会館がありました。令和2年度に解体されたため、今回、史跡の追加指定に向けた調査を行いました



4 トレンチ



調査結果に基づく堀の想定図（上が北）



2 トレンチ（右が北）



屈折部拡大写真



5 トレンチ



3 トレンチ

調査成果

- ・犬山城の城内と城外を区画する外堀の一部が、地下に良好な状態で残されていることが判明しました。
- ・堀の規模としては、幅約 17.5m、深さは 6.5m 以上で、絵図の記載とほぼ一致することがわかりました。
- ・水のない空堀であることや石垣のない素掘りであることが確認できました。
- ・堀の正確な位置や、東西方向から南北方向に折れ曲がる場所が特定できました。
- ・堀の埋土の堆積状況や出土遺物から、明治 6 年に犬山城が廃城となった際に土塁を崩して埋め立てられたとみられる層、明治から昭和の古い時期に埋められた層が新旧で 2 層、戦後に埋められた層の合計 4 回にわたって埋められた状況が判明しました。
- ・絵図では、堀は東西方向と南北方向に平行に走っており、大手口は正方形となっていますが、各調査区で確認した堀の端を結んだ結果、大手口東側は南北方向にまっすぐ進んでいますが、大手口北側はやや北側に振れていることが判明しました。

調査写真

